



大人との絆を求め 子どもたちに

親元を離れて暮らす子どもたち

様々な家庭の事情により、親元を離れて暮らす子どもが大阪市に約1200名います。中には、クリスマスやお正月でさえ、家族と一緒に過ごすことができない子どももいます。

親がいない、親がいても病気や離婚、虐待などによって、家に住むことが困難な2歳～18歳の子どもを児童養護施設では親に代わって養育しています。

児童養護施設で子どもたちは、どんな暮らしをしているのか。区内にある「四恩学園」を訪ねました。

気を使う集団生活

同学園には、就学前の子どもから18歳まで現在約130名の子どもが暮らしています。施設長の青木正博さんは「施設の子どもの約6割に虐待がみられ、身体的虐待よりも、心理的な虐待

やネグレクト(育児放棄)が多い」と話します。

学園では、各自の部屋はあるものの、基本的には集団生活です。

「大人数、しかも、幅広い年齢層の子どもたちがいる中、いつも周りを見て、気を使いながら暮らしているように見えます」

その一方で、集団生活は、イベントなど仲間と一緒に楽しめるような良い一面もあります。

「大晦日は、一心寺の支援をいただき、みんなで除夜の鐘をつきに行きます。正月は、書き初め、かるた大会、お年玉も多少は渡しています。グループによっては、初日の出を見に行き、戻ってから近くの銭湯で初風呂に入ったりすることもあります」

集団生活は、他者を意識せざるを得ない

たとえば、1ヶ月預かってもらうことで、学校を転校せずに子どもがいます。

養育里親を募集しています。

短期もあります

たとえば、1週間家庭を必要とする赤ちゃんがいます。



さとおやっぺなあに 検索

ないため、社会性を身に着けることには役立つかもしれません。



▲児童養護施設 四恩学園施設長 青木 正博さん

圧倒的に足りないものとは？

「施設には、親にかわいがられた経験が十分ではない子どももいます。子どもは大人に愛着という安心感のある絆を求めます。しかし、その求め方が不自然なんです。例えば、特定の先生から離れなかつたり、悪態をついたり、『おまえなんか嫌いだ！』と関係をシャットアウトするようなことを言ったり。大抵は『大事に思ってくれる人かどうか』を試している場合が多いのです」

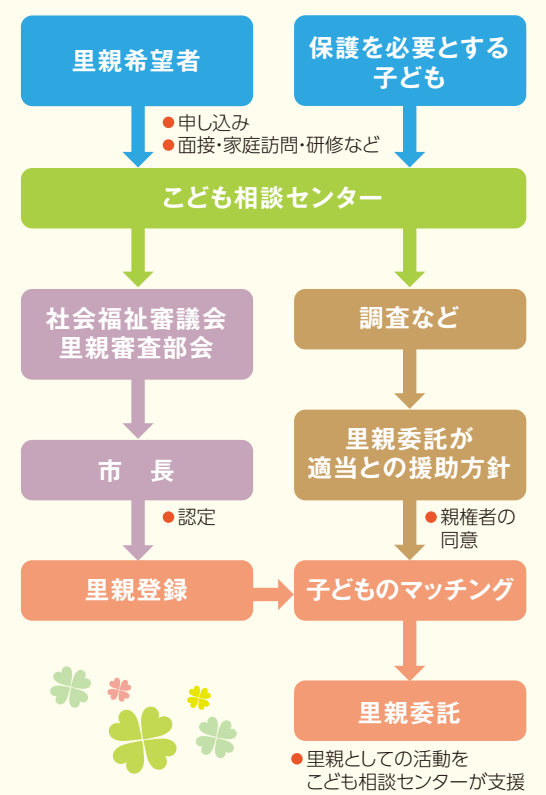
子どもの頃、家庭の中で大人と1対1で愛着関係を築くことは非常に大切です。しかし、施設の中での養育では、1人の子どもにつきつきりではいられません。そこで、特定の大人との関係を築きながら育つことができる里親家庭での生活やそれに近い環境が求められています。

「里親」は何をしたらいい？

里親とは、自分の家で暮らすことができなくなった18歳未満の子どもの自らの家庭に引き受け、保護者として愛情をもって養育する人のことをいいます。実際に里親になった場合、何をすればいいのでしょうか。



里親になるには？



▲市内各地で里親制度を説明する里親相談会を開催しています。

里親は誰でもなれる？

健康や経済状況、住環境、養育への理解、子どもへの愛情などの審査がありますが、自分の子どもがいる、独身等

「子どもとふれ合うとき、職員に言っているのは、子どもの言うことにはしっかりと耳を傾けて聞く、変化を目で捉える。子どもと1対1の時間をたっぷりとる。あとは、子どもの成長を待てばいい」と



▲四恩学園には里親になる人と子どもが寝泊まりして、一緒に生活に慣れてもらうための部屋があります。

日本では、欧米に比べて里親家庭で暮らす子どもたちの数が少ないと言われています。国も今、子どもたちが家庭的な環境の下で生活できるよう力を注いでいます。

里親制度について詳しくは

大阪市子ども相談センター
〒54000003
中央区森ノ宮中央1-17-5
☎43013156
☎43013156
FAX 69442060

目次	●保健・衛生..... 4	●おおさか掲示板..... 9
●クローズアップ天王寺..... 2	●子育て情報..... 5	●区民の皆さんの声を、区政に反映します！／ 年末年始のごみ収集日のお知らせ..... 12
▶里親制度	●イベント情報..... 6	
●お知らせ..... 3	●わがまち天王寺..... 8	